

会 誌

第 53 号

1. 資料 札幌地名総攬の加筆・訂正
.....山 内 正 明..... 1
2. 桑園と円山
.....岡 積 義 雄..... 6
3. 新聞活用してのフィールドワーク的な地理学習の可能性
.....菊 地 達 夫..... 14
4. 北海道余市町における小規模ワイナリーの展開
.....土 田 慎 一 郎 22
5. 高校生向けの市内巡検コース
.....大 久 保 雅 弘 28

2020年5月

札幌地理サークル

資料 札幌地名総覧（2019年5月版）の加筆・訂正

山内 正明

札幌地理サークル会誌第52号に掲載した「資料 札幌地名総覧」について、加筆・訂正する箇所がありましたので報告します。

以下別表

札幌地名総覧（加筆・訂正分）

地名ふりがな	地名	区	採録番号	備考
あかぶら	アカブラ	中央	205	札幌市北3条広場
あつべつちょう	厚別町	厚別	198	
あつべつちょうあさひまち	厚別町旭町	厚別	100	朝日松に由来
あまだれこうじ	雨だれ小路	中央	157	東1～2丁目の中通り南1～4条 古道具屋雑品屋などが立地
いなづみ	稲積	手稲	166	明治35年 稲積豊次郎 開墾
いのがみりゆうじん	井頭龍神	北	205	北区北6条西7丁目 偕楽園緑地内
うらどおり	裏通り	中央	206	西屯田通(西13丁目通り)東側裏道 南3～6条
えいりんくしよ	営林区署	中央	52	北2条西6丁目
おかだま	丘珠	東	66	
おかばし	岡橋	中央	206	西5丁目陸橋 通称石狩陸橋
おたねはま	オタネ浜	小樽市	206	大浜海水浴場 現 オタルドリームビーチ
おやふこうとおり	親不孝通り	豊平	205	菊水4条2丁目界限
かたいしやま	硬石山*	南	44	札幌硬石の採掘 371.0m
かりき	雁来	東	185	
がるがわ	ガルガワ	手稲	16	手稲本町「涸れ川」から転訛
かわぞえちょう	川沿町*	南	80	バス停名 川沿3条3丁目
かんこ(う)ば	罐工場	中央	157	狸小路1丁目(南3条)
きたいばらきえき	北茨木駅	南	60	定山溪鉄道 茨木農場 茨木与八郎
きんざん	金山	手稲	176	
くじらのもり	鯨の森	中央	206	大通西9丁目
けねうす	ケ子ウス	南	16	砥石山
こうのうえんまええき	興農園前駅	東	205	札幌軌道 停留所名 北11条東1丁目
こがねゆていりゆうじよ	小金湯停留所	南	198	定山溪鉄道
こくどうよんごう	国道四号	中央他	76	大9施行 旧道路法では4号 昭和27新道路法で5号
こくみんちよぞうぎんこうしてん	国民貯蔵銀行支店	中央	33	南4条西2丁目
ことりかわ	小鳥川	中央区	160	ケネウシペツ
ことりかわ	小取川	中央区	205	ケネウシペツ

このはなだんち	木ノ花団地	豊平	90	平岸1条5丁目界限昭和32年日本住宅公団45棟732戸
このはなどおり	木の花通	豊平	175	米里行啓通の一部 平岸4丁目線
こべつさわ	小別沢 *	西	46	
さかえまち	栄町 *	東	88	公立小中学校名
さかえまちとおり	栄町通り	北	205	琴似栄町通北1条・宮の沢通から篠路通まで 9160m
さくしゅことにがわ	サクシュコトニ川	中央	205	サクシコトニ川
さっぽろえききたぐちそふとかいり	札幌駅北口ソフト回廊	北	205	サッポロバレー
さっぽろしきたさんじょうひろば	札幌市北3条広場	中央	205	通称 アカプラ
さっぽろしゃわーとおり	さっぽろシャワー通り	中央	205	南1条中通り パルコ裏通り
さっぽろせいぶさんち	札幌西部山地	手稲他	205	
さつほろやま	サツホロ山	南	204	札幌
さんじゅうさんかしょ	三十三ヶ所	中央	206	藻岩山登山道
しのろちょう	篠路町	北	126	
しのろちょうたいへい	篠路町太平*	北	96	太平
しやくしことにがわ	杓子琴似川	北	205	サクシコトニ川
じゅうべえぬま	重兵工沼	中央	164	北4西25, 26 宮の森北東縁 円山川、琴似川が水源か？
じゅうべえぬま	重兵衛沼	中央	206	北4西25, 26 宮の森北東縁 円山川、琴似川が水源か？
しろいし	白石	白石	25	
しろいしこころ一ど	白石こころ一ど	白石	205	自転車歩行者専用道路
しんかわ	新川 *	北	39	明治19年 開削 13.0km
しんことにちょう	新琴似町 *	北	90	新琴似
すいどうやま	水道山	中央	206	藻岩浄水場付近
すみかわうえすと	澄川ウエスト	南	205	通称 澄川3条2丁目界限
だいがくのかわ	大学の川	北	206	サクシコトニ川 2.7km 0.3km 新川に合流
たきの	滝野 *	南	87	旧器械場
たくぎんすろーぷ	拓銀スロープ	中央	206	円山南麓双子山界限か？
だんがんどろう	弾丸道路	豊平	206	豊平川右岸堤防道路 昭和21年5月 米軍キャンプと連絡
ついしかりかいどう	対雁街道	東	205	現 国道275号線の一部
つきさむ	月寒	豊平	25	昭和19年 「つきさつぷ」から「つきさむ」へ変更
つきさむだんそう	月寒断層	豊平	205	

つきさむちゅうおうどおり	月寒中央通 *	豊平	98	国道36号線 弾丸道路 室蘭街道
ていねいなほ	手稲稲穂 *	手稲	102	バス停名 稲穂3条3丁目
ていねほしおき	手稲星置 *	手稲	94	星置
ていねまえだ	手稲前田 *	手稲	96	明治27年 旧加賀藩主前田利為 農場開設
ていねやまぐち	手稲山口 *	手稲	94	明治14年 宮崎源治右衛門ら山口県人が入植
てっぼくちく	鉄北地区	北	206	通称 北8条西3丁目界限
てらぐちやま	寺口山	西	206	北海道医療センター付近 山の手5の8
といしやま	砥石山 *	南	49	826.7m
とうこうえんまええき	東皐園前駅	東	205	札幌軌道停留所名北10条東1丁目界限
なかじまこうえん	中島公園 *	中央	35	南12条西4丁目周辺
にしかたいしやま	西硬石山	南	205	397m 硬石山中央峰の通称
にしきたとおり	西北通	白石	205	現東北通 東北通の西側通り
にしさっぽろだんそう	西札幌断層	西	205	
のっぼろきゅうりょうだんそう	野幌丘陵断層	厚別	205	
はつしゃふふと	ハツシャフト	北	26	発寒川川口 茨戸橋付近
ひがしきたとおり	東北通	白石	205	東北通の原名 バス停名
ひがしなえぼちょう	東苗穂町 *	東	88	バス停名 本町2条4丁目
ひつじがおか	羊ヶ丘 *	豊平	77	通称 種羊場
べっかうす	ベッカウス	西	204	西野
ほくえいだんち	北栄団地	東	205	北32条東3丁目界限
ぽぷらかいどう	ポプラ街道	北	206	西5丁目通沿い西側(北8~16)あたり 北大構内 ポプラ並木
ほんすじかいどう	本筋街道	白石	206	豊平川右岸通か? 2代目東橋(現東橋下流150m)から12号線まで
ほんすじとおり	本筋通り	白石	206	豊平川右岸通か? 2代目東橋(現東橋下流150m)から12号線まで
ほんどおり	本通 *	白石	42	月寒 旧字名
ほんひと°い	ホンヒト°イ	北	141	美登位
まこまない	真駒内 *	南	25	真駒内
まこまないあけぼのまち	真駒内曙町 *	南	98	
まのふみきり	魔の踏切	中央	206	北7条西11丁目
まるやまいくじゅえん	円山育樹園	中央	206	円山北西山麓 坂下グラウンドも含めて 約6.6万坪
みそらとんねる	みそらトンネル	白石	205	自転車歩行者専用道路 南郷通15丁目南

みなみしゃめん	南斜面	中央	206	円山南斜面 双子山界限
みなみろくじょう	南六條	中央	63	電停名 南6条西7丁目
もいわやま	藻岩山 *	南他	27	530.9m
もえれぬまこうえん	モエレ沼公園 *	東	120	平成17年グランドオープン
もつきさむがわほうすいろとんねる	望月寒川放水路トンネル	豊平	205	2020年6月完成予定 全長1.6km
やまはなむらとんでんへいそん	山鼻村屯田兵村	中央	24	南14条西10丁目周辺
よこちょう	横丁	白石	41	東札幌5条2丁目界限
わりぐりみさき	割栗岬	南	205	北ノ沢

2020年3月8日 現在

桑園と円山 ～探究型学習への一考察～

北星学園大学・非 岡 積 義 雄¹

1 はじめに

令和 4 (2022) 年度入学生から学年進行で実施される高等学校学習指導要領¹に目を通して見た。そこで感じたことは、戦後の日本の教育は、学習指導要領が改訂されるたびに「経験主義」と「系統主義」の間を振り子のように揺れ動いており、今回の改訂では「経験主義的傾向」が強い内容になったということである。特に高等学校では平成 11 (1999) 年 3 月の改訂で登場した「総合的な学習の時間」の扱いについて、一部の学校現場では「総合的な学習の時間」を正しく理解や認識がされずに受験対策や行事への振替として使われていた実態も見られたため、これまでの反省をもとに今回の改訂で再度その趣旨が強調されて、名称を「総合的な探究の時間」としてカリキュラム・マネジメントを意識した教科横断型の探究学習としての取り組みが期待されている。

私自身、主に地理教育において、学校や生徒の身近な地域を研究することで授業に地域調査活動を取り入れてきた。「総合的な学習の時間」の具体的テーマ事例では、「地域学習」は小学校での実践とされているが、中学校・高等学校においても生徒の年代に応じた「地域学習」があり、年齢に応じた有用的な地域貢献を考えることができる。学校教育目標を適切に定め、学校のある地域社会と連携した「社会に開かれた教育課程」として学校全体でマネジメントすることも可能である。これらのことを視野に置いて、札幌市「桑園」と「円山」をテーマに新学習指導要領に対応できる探究型の地域調査を考察してみることにした。

2 地域設定の理由

現在、私は非常勤講師として北星学園大学で教職課程を担当しているが、普段は学校法人西野学園札幌心療福祉専門学校に勤務している。毎日、札幌心療福祉専門学校の 4 階から桑園地域を眺めており、この専門学校がある場所（中央区北 2 条西 20 丁目）は、疑うことなく桑園地域だと思い込んでいた。ある時、地理教師の癖で「桑園」に関わる巡検ネタや見学地を探していた際に、中央区役所で手に入れた「中央区ガイド」ⁱⁱで地域区分を見ると、なんと北 2 条西 20 丁目は「桑園」ではなく「円山」だったことがわかった。(図 1 参照) どうりで同じ校舎内にある放課後児童クラブの名称が「さくらキッズ円山」となっていた。ここは「円山地区」だということを西野学園は知っていたことになる。

この勘違いをもとに地域調査のきっかけができるわけだが、このことを私自身の興味関心だけではなく、地理教育に活かすことができないかと考えてみた。この勘違いからの発見から次の疑問が生まれ、その疑問の解決に向けての探究が新たな疑問と知識を



図 1 札幌市中央区ガイドより

¹ 学校法人西野学園札幌心療福祉専門学校長、北星学園大学教職課程非常勤講師

生み出していく。まさしく経験主義的問題解決学習となっていくのである。その中で単に地域を調べるだけで終わらず、この地域にある課題や問題点も浮き彫りにすることができるのではないだろうか。このような実践を学校教育に活かすためには、教科地理に留まらず、児童・生徒が学ぶ全教科で得た知識を総動員して、教科横断型の探究学習のためのカリキュラムを考えることが必要であり、探究型学習を目指す「総合的な探究の時間」「カリキュラム・マネジメント」につながっていくものと考えられる。

3 探究の経緯

(1) 桑園と円山の境界について

本校が桑園と円山のちょうど境界にあることがわかり、それでは、いったい桑園と円山はどこで区切られているのか気になって調べてみた。図1をみると、本校がある北2条西20丁目の交差点までは直線で区切られているが、北3条西23丁目付近からは不自然な形で複雑に地域を区切られている。古い地図で桑園地区の開拓の様子を確かめてみたところ、現在の北4条西20丁目あたりに学校がある。これは旧制二中（現在の札幌西高校）であり、そこから東側は湿地のままである。（図2参照）

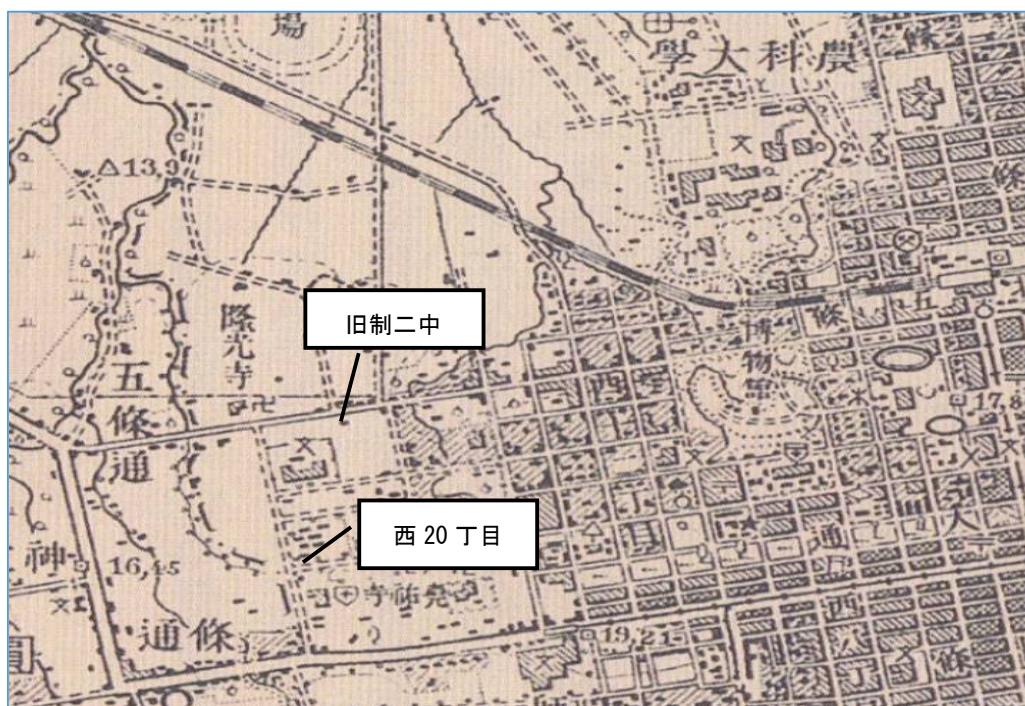


図2： 5万分の1地形図「札幌」大正5年測図

旧制札幌第二中学校は大正2（1913）年に北3条西18～19丁目に創設され、昭和25（1950）年に公立高校再編に伴い北海道札幌西高等学校と改称された。昭和35（1960）年に火災により校舎を焼失したことで、現在の宮の森4条8丁目に新築移転したため、昭和37（1962）年に西高の跡地に札幌龍谷学園札幌女子高等学校が校舎を建て、翌昭和38（1963）年に第1回の入学式が挙行された。現在も札幌龍谷学園高等学校としてこの土地にある。昭和38（1963）年は札幌女子高の他に西本願寺札幌別院、道庁共済会館も建設され、同じ年に公園も作られた。



図3 二中公園

この公園にはかつてこの土地にあった札幌第二中学校の名をとって「二中公園」(図 3)と名付けられた。大正 5 (1916) 年の地形図(図 2)から予測されることは、北 1 条から北側に鉄道線路を越えて競馬場付近までと西 20 丁目までの範囲は桑園として開拓された地域であると考えられる。そして西側で接している円山村との境は旧河川跡を使ったのではないかという仮説が成り立つ。図 1 と図 2 の西側の境界を比較してみると以下のとおりである。



図 1 境界部分拡大

旧琴似川支流(右)と
境界線(左)



図 2 境界部分拡大

現在の地図を確認してみると、ほぼ基盤の目状態で区画されていても部分的に不自然な路地が見える。図 4 の A 地点の矢印部分は写真 A のとおり、都市化された区画の中で自然状態が感じられる地域である。図 4 下の写真は A 地点に行って確認したものである。歩いてみても、区画が整理されている地域にあって不自然に曲がっており、明らかに人工的な直線化工事の手が加えられておらず、旧河川の跡かと思われる。

平成 17 (2005) 年に桑園地区連合町内会によって発行された「桑園誌—130 年の足跡をたどる—」ⁱⁱⁱでは、桑園の境界について次のように書かれている。

「桑園の地域は、明治 4 年以降、札幌の周辺に順次新村を設けた際、西 11 丁目以西は一応市街の外となっていたため、札幌区と円山村のいずれに属するか長い間不明であった。」

続いて新札幌市史^{iv}では「明治 15 年 2 月、開拓使が廃止されて県制がしかれ、札幌区は札幌県管轄となり札幌区が札幌市街のみとなったので、隣接村との境界を明確に決める必要に迫られた。従来境界について疑義のあった円山村との境が西 21・22 丁目あたりまで移り、琴似川の支流と決められた。」とあり、琴似川の曲がりくねった支流をそのまま境界にしたものと思われ、現在でも市街地の区画の中にもわずかであるが河川跡の形跡が見受けられる。

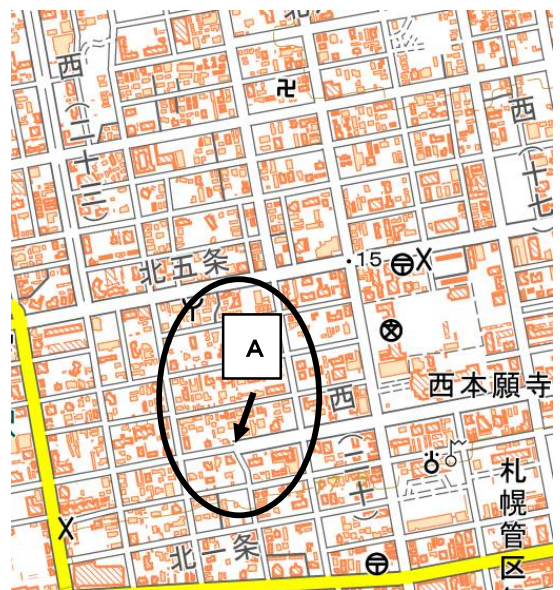


図 4



A 地点写真

(2) 札幌市桑園と山形県と鹿児島県

「総合的な学習の時間」の探究の仕方には、学年全体で取り組んだり、それより小さなグループや班で取り組んだり、また、個人研究という単位での探究方法がある。新学習指導要領の育むべき資質・能力の中に、様々な他者と連携協力して取り組む協働学習が望ましいとの観点も見られる。しかし、ここでは自分の興味関心で課題を自ら見つけ出すことを主眼に置きたい。

私の出自は鹿児島県である。父母ともに鹿児島県出身であり、私が生まれたのは父の仕事の勤務地だった長崎県佐世保市だが、就職するまで本籍地は鹿児島県の父の実家のある住所だったため、ほとんど住んでいないにもかかわらず、鹿児島県が私自身のルーツとしてアイデンティティを形成している要素となっている。

札幌心療福祉専門学校の4階から眺めると隣接する札幌開発建設局と札幌管区気象台の建物が見える。この場所は、北海道の産業振興として、そして桑園地区の養蚕業の中心として「農事講習所」と「養蚕伝習所」が置かれていた。(図5参照)

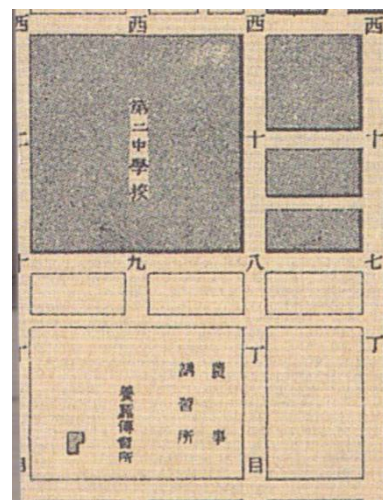


図5「札幌市街之図」大正10年北海道発行

明治7(1874)年に、この地に養蚕業を開拓使長官の黒田清隆に建築したのは庄内藩出身の開拓使大判官松本十郎だった。庄内藩は、廃藩置県による武士の禄を守るために「松ヶ岡開墾場」(図6)を開いて武士に養蚕業を担わせて成功した前例があり、また、当時丘珠地区に入植した元庄内藩士が野生の桑を使って養蚕を試みたことも背景にあった。^v

開拓使長官の黒田清隆は薩摩藩士として明治元(1868)年に西郷隆盛の参謀として庄内藩を討つために鶴岡城へ入城し説得により開城させた。新政府側の薩摩藩は幕藩体制を倒すための活動をしてきたため、旧幕府側であった庄内藩が江戸の薩摩藩邸を焼き討ちにした。このことがきっかけとなって戊辰戦争が始まった。当時庄内藩士松本十郎は開城後に幽閉されていた庄内藩主酒井忠篤の恩赦を黒田清隆に嘆願し、かなわなければ差し違える決意で京を訪れたが、黒田と



図6松ヶ岡開墾場 鶴岡市

西郷が庄内藩の恩赦に奔走している姿を知り、松本は非を詫び、そして黒田はその松本の人物を認めて開拓使入りを勧めた。庄内藩は西郷と黒田により、賠償金が減封され、藩主酒井忠篤は隠居を命じられたのみの寛大な処置がとられた。このことから西郷から教えを乞うようになり、山形県酒田市の人たちが西郷の言葉を記録した「南洲翁遺訓」を今も出版している。

桑園地区には松本十郎の建築による旧庄内藩士が158名入植し開墾(図7)に当たった。この旧庄内藩士が開墾した付近を酒田桑園と呼び、のちに官営第1号桑園と改称し、さらに単に桑園と呼ぶようになった。桑園の農業は屯田兵によって進められていったが、明治22(1889)年に札幌養蚕場が札幌養蚕伝習所となり、次第に冷涼な気候に伴い、養蚕が牧草・畑作へと切り替わっていった。^{vi}



図7桑園碑 知事公館

現在、眺めているこの地域の開拓には、開拓使長官黒田清隆・小判官調所広丈などの薩摩藩(鹿児島県)、大判官松本十郎・松ヶ岡開墾場から派遣された158名の旧庄内藩士などの庄内藩(山形県)が関わっている。薩摩藩の西郷隆盛らによる士族屯田兵制の設置は松ヶ岡開墾場と同様、明治維新政策による武士階級の戦後補償の形で進められ

ている。桑園の歴史には鹿児島や山形出身者が深くかかわる歴史が見られ、幕末から維新にかけての日本における一大クーデターの流れが大きく影響し、この地域の発展に作用している興味深い関係性を見ることができる。

昭和 39 (1964) 年の東京オリンピック直前の 8 月に、私たち家族 4 人は汽車と青函連絡船を乗り継いで九州から札幌へ引っ越してきた。当時、北海道に渡ることは九州の人間にしてみると、それはまるで外国に行くことのように大変なことであった。当時の若かった父と母のその勇気に心から感服する。今では孫たちが同じ年代となり、同郷の祖先らが切り拓いたこの街で生活をしている。このように歴史の巡り合わせを探究に向かう興味関心の根拠とするには「個人研究」が適すると考える。

(3) 地名のブランド力 - 円山について -

円山という山はもともとアイヌ語で「モイワ」(小さい山)と呼ばれており、隣接する現在の「藻岩山」が「インカルシペ」(眺めの良い山)と呼ばれていた。ところが時代の移り変わりの中でいつの日か隣接する「インカルシペ」が「モイワ」と呼ばれるようになったため、本来の「モイワ」は丸い形の山から「円山」と呼ばれた。この円山地区は明治 3 (1872) 年に酒田・越後の移民 394 人 (118 戸) が小樽から船と陸路で札幌へ向かい、途中、庚午一ノ村 (苗穂村) 120 人、庚午二ノ村 (丘珠村) 88 人、庚午三ノ村 (円山村) 90 人が配属された。この 90 人は酒田 (山形県庄内地方) からの農民 30 戸 90 人だった。円山の開拓も桑園の歴史と同様に山形県の移民が開祖として行っていた。翌明治 4 (1873) 年に開拓判官岩村通俊が札幌神社の造営場所を京都の「円山」に因んで命名していたため、その宮地の麓にある庚午三ノ村を円山村とした。30 戸 90 名だった開拓民が翌年には隣の琴似村から 9 戸、岩手県から 6 戸の移民があり、合計 45 戸が円山の開祖となった。^{vii}

札幌心療福祉専門学校がある北 2 条西 20 丁目は円山と桑園の札幌市の行政区画上の境になっている。つまり「まちづくりセンター」毎の区割りである。特に桑園と円山の境界という部分は琴似川支流を基礎としているため、とても微妙で複雑である。そこに建つ会社やマンションの名前を見ると、明らかに異なる隣接する地名を使っているところもある。特に住民・市民感覚から地価が高かったり、響きがよく思われていたりする地域の名称のほうが多く使われている。例として、北 3 条から北 5 条の西 20 丁目から西 24 丁目にある会社やマンションを地図 8^{viii}で確認してみることにする。この範囲の北 22 条以西が円山で以东が桑園である。結果は以下のとおりである。

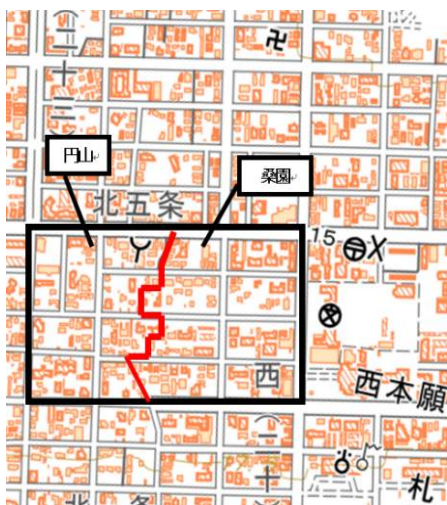


図 8 地理院地図から筆者作図

○桑園なのに円山と名乗っている会社や建物・・・12 件
ライオンズマンション円山、プライムアーバン円山北 4 条、
クリアシオン北円山、アルモニア北円山、ラピス円山 N 4、
セントポーリア北円山、ヴィレッジ北円山、ハイツノース円山、
リヴェル円山、ダイヤパレス円山領事館通、プレミスト
円山北 3 条、リビオ円山

○円山なのに桑園と名乗っている会社や建物・・・1 件
札幌中央消防署桑園出張所

この結果から、マンション名に桑園よりも円山を使いたいという傾向が見られた。住む場所として円山のほうのブランド力が高いということだろうか。また、円山にありながら桑園と称している「札幌中央消防署桑園出張所」はかつて桑園地区側にあった建物が移転したため、桑園の名を残したそうであるが、公的な機関であるので利益的なブランド力は関係ないということか。今回調べた範囲ではないが北 8 条西 22 丁目にある薬局は地区的には円山であるが、店名に「サツドラ桑園北 8 条店」と、桑園の名を示している。地域的にぎりぎりだが、個人的には桑園地区のイメージがあるため、違和感はない。さらに、北 9 条西 21 丁目と北 10 条西 21 丁目には円山の名をつけたマンションが 4 件見られる。行政的な地区割りでは、そこは桑園であるが、札幌市の土地区画整理事業の区割り（図 9^{ix}）では「北円山」に含まれていることになる。

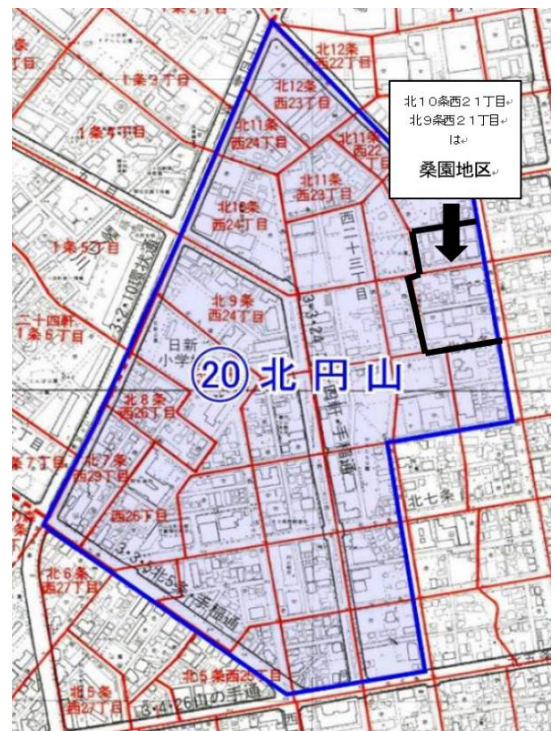


図 9 北円山土地区画整理事業より筆者作図

円山と桑園の境界線付近では円山の名称が多く見られるが、現在は円山も桑園も札幌市民が「住みたい地域」^xの上位にランクされる人気の居住地域である。桑園地区もかつては北海道大学の先生たちが居住していた「博士町」もあった地域であり、教育熱心で子どもを育てる世代が多く居住するようになり、ファミリー向けのマンションも立てられたため、JR 桑園駅に近いマンションの多くには「桑園」という地域名が付けられ、ブランド化が見られる。

市民に人気の居住地ではあるが、札幌は地形的には扇状地であるため、河川による地形への影響は大きい。桑園地区は豊平川による扇状地の扇端にあたり、湧水（メム）が多く見られていた。また、円山と同様に琴似川の支流、界川の流路にもあたり、かつては小さな支流が下流で合流する琴似川へ向かって桑園や円山・宮の森地区を流れていた。その名残が地区割りの境界に表れていたり、知事公館の流路、植物園の池などが見られたりしている。桑園イオンが立つ場所もかつては大きな池があったと記録に残っている。このことから想像すると水量が多くなると水害のおそれと考えられるので、札幌市発行のハザードマップ^{xi}で確認してみることにする。

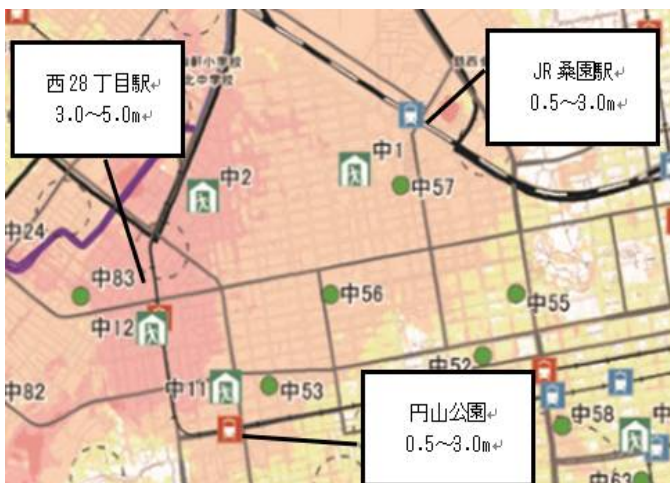


図 10 札幌市洪水ハザードマップに筆者作図



図 11 札幌市地震災害ハザードマップに筆者作図

扇状地の先端部分で河川跡の地形では、浸水の危険性も地盤の弱さも見られるハザードマップである。確かに現地を歩きながら地形の様子を眺めてみると、特に西 28 丁目駅付近から宮の森にかけては、大雨で浸水すると水が抜け出られず、滞水しやすそうな印象を受けた。また、水分を含んだ土壌のせいか、地盤も緩くなっているようであり、地震での揺れが大きいという予測がハザードマップにも表れている。

札幌市作成の地震災害のハザードマップには、平成 20（2008）年 9 月に策定された第 3 次地震被害想定^{xii}に基づいて札幌で発生する地震の最大級の震度を示している。第 3 次地震被害想定は最悪の事態に備えるために策定されたものだが、ここでは札幌市で起こる地震の原因として 3 つの伏在活断層の存在を挙げている。かつて札幌市で発生した大きな地震によって液状化した場所が遺跡調査等で分かっており、札幌を襲った強い揺れは、1 回目は紀元前約 290 年以前、2 回目は紀元後 220 年から 650 年の間、3 回目は 947 年から 1739 年の間、4 回目は 1739 年である。液状化の跡が発見されたのは、石狩市と北区と東区の遺跡、札幌競馬場から北海道神宮までの遺跡、江別市の遺跡発掘現場であり、今回の地域調査の範囲である円山から桑園地区にかけて最大震度 7 が想定されている地域で、さらに液状化の跡も見られていることがわかった。^{xiii}

ところが、洪水と地震の被害が予想される地域でありながら、居住地域としての人気が高く、土地の価格も高い。次の図 12 は地価と震度・浸水の状況を比較した表である。

地区	住所	地価	最大震度	浸水予想
円山	北 5 条西 28 丁目	479,000 円/㎡ 1,583,471 円/坪	震度 7	3.0m~5.0m
円山	南 1 条西 26 丁目	550,000 円/㎡ 1,818,181 円/坪	震度 6 強	0.5m~3.0m
桑園	北 8 条西 18 丁目	148,000 円/㎡ 489,256 円/坪	震度 6 強	0.5m~3.0m
桑園	北 11 条西 20 丁目	153,000 円/㎡ 505,785 円/坪	震度 7	0.5m~3.0m
※真駒内	柏丘 2 丁目	70,200 円/㎡ 232,066 円/坪	震度 5 弱	浸水被害なし

図 12（地価：令和元（2019）年の基準地価^{xiv}より）

※印の真駒内柏丘は昭和 47（1972）年の札幌オリンピックの際にスケート会場のある真駒内公園に隣接した地域に区画整備され、一時期は人気の住宅地であった。南区は扇状地の扇頂にあたり、岩盤に覆われており、柏丘地区は標高のある高台にあつたため、地震・洪水共に被害が少ないとハザードマップ上で表示されている地域である。そのような地域よりも、円山・桑園地区は、ハザードマップが公表されても地価が上昇し続けている。この地域のブランド力は都心への近さ、交通利便さ等から、大変根強いものがあり、社会資本や建築技術の向上と充実により、そんなに簡単に水没したり、地震で倒壊したりすることはないという信頼もこれを支えていると考えられる。

4 まとめ —地域の学びを学校教育にどう取り入れるか—

学校教育において、地域を調査したり、学習したりする目的は子どもたちの「社会参画」を促すことでもある。社会参画型の学習は平成 18（2006）年に公布・施行された教育基本法の第 1 章第 2

条第3項に「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」とあるように学校が目指すべき教育目標でもある。

この教育基本法を受けて、平成20(2008)年告示の小中学校学習指導要領と平成21(2009)年告示の高等学校学習指導要領においては、「子どもたちが公共的な事柄に主体的に参画していく資質・能力の育成を目指す」と示され、地理教育では中学校の「身近な地域の調査」で、「地域の課題を見出し地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養う」とされ、社会参画の視点が導入されている。この方向性は平成29(2017)年告示の小中学校学習指導要領、平成30(2018)年告示の高等学校学習指導要領にも引き継がれており、これらに先立って中教審答申で、18歳選挙権を視野に入れた主権者として地域社会の形成に参画し、発展に寄与する態度を育むことの重要性を示唆している。

しかし、この社会参画授業を実際に現場で取り組むにはいくつかの障壁がある。一つは授業時間確保をどうするかである。地理だけの時間では学ぶべき内容を削減しない限り生まれてこない。もう一つは、地理のカリキュラムに「社会参画」をどう位置付けるかという根拠の問題がある。これらの解決には最新の学習指導要領に示されているように、「①教科等横断的な学習の工夫 ②教育課程の評価(PDCA)を通じた改善 ③地域社会にある人的・物的資源の活用」をすることで「総合的な学習の時間」との連携を進めることが必要となる。そのためには、学校教育目標に沿った視点でのカリキュラム・マネジメントが糸口となるものと思われる。

社会参画のための探究型の学習を行ったら、生徒が取り組んだ授業の最後に「まとめ」をしたい。冊子として製本して町内会や区役所、市役所に置いてもらったり、セレモニー的に職員の方に手渡して、自分たちの成果が住みよいまちづくりに対する提案としたり、発表の場を設けて市民の方々にプレゼンをしたりすることで、深い学びの「まとめ」には、生徒たちの心に「達成感」とともに社会における「学びの有用性」を感じさせることが必要なのではないだろうか。

(おかづみ よしお)

ⁱ文部科学省(2019):『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、東洋館出版社

ⁱⁱ札幌市中央区役所(2019):『中央区ガイド』

ⁱⁱⁱ桑園誌編集実行委員会「桑園誌—130年の足跡をたどる—」、札幌市中央区桑園地区連合町内会、pp25-26、2005.3.

^{iv}札幌市教育委員会編(1991):『新札幌市史第2巻通史2』、北海道新聞社

^v桑園誌編集実行委員会「桑園誌—130年の足跡をたどる—」、札幌市中央区桑園地区連合町内会、pp12-23、2005.3.

^{vi}桑園地区連合町内会ホームページ「桑園の歴史と由来」(<https://sooen.jimdofree.com/>)

^{vii}札幌の歴史・文化情報館(<https://sapporo-jouhoukan.jp>)

^{viii}Google map より

^{ix}札幌市ホームページ、札幌市計画西郊地区北円山土地整備区画事業より(<https://www.city.sapporo.jp>)

^xSUUMO「札幌市で住みたいまちランキング2018」円山が2位、桑園が8位(<https://suumo.jp/>)

^{xi}札幌市ホームページ、災害危険箇所(ハザードマップ)、洪水ハザードマップ、地震防災ハザードマップより(<https://www.city.sapporo.jp/>)

^{xii}札幌市ホームページ、札幌市地域防災計画、地震災害対策編、第3次地震被害想定より(<https://www.city.sapporo.jp/kikikanri/>)

^{xiii}札幌市防災会議(2019):『札幌市地域防災計画地震災害対策編』

^{xiv}土地代データホームページより(<https://tochidai.info/hokkaido/sapporo/>)

新聞活用してのフィールドワーク的な地理学習の可能性 —チバニアンの内容を用いながら—

北翔大学 菊地 達夫

1 はじめに

新学習指導要領の完全実施は、2020年の小学校を皮切りに、2021年の中学校、2022年の高等学校と続く。今回の学習指導要領は、戦後、良くも悪くも、大きな改革であると言われる。その改訂の目玉は、幼稚園、小学校・中学校・高等学校を通じて、①育成を目指す資質・能力を明確化すること、②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、③各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進である。①では、各教科等において、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の3つの柱に基づいた目標が示された。②では、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか、という点を働かせるよう求められた。地理では、地理的な見方・考え方として、社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付き等、地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けることとなっている。

また、2020年に入り、新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延し、学校教育の場合、休校措置・延長、学習環境の工夫・改善など感染防止に向けた対策を講じる必要性が生じた。4月以降も、多くの学校で対面授業は出来ず、オンライン授業の導入等、思考錯誤しながらの検討・模索が続いている。とりわけ、校外学習の代替は難しい。地理学習におけるフィールドワーク学習も例外ではない。

そこで、小稿は、小中高を通じての地理学習におけるフィールドワークに着目し、新聞記事を活用しての授業開発の可能性を示す。また、新型コロナウイルス対策下にある自宅学習（長期休校期間）の場面で、可能となる学習活動の1つとしても目指したい。なお、フィールドワーク的とは、学習者が、直接、地域調査・観察を実施しない学習活動と位置付けたい。これまでも、地域調査・観察を実施しないフィールドワーク的学習は、インターネットや文献等を利用した調べ学習としてみられた。この手の調べ学習は、長きにわたりフィールドワーク学習の代替となっている。また、フィールドワーク学習における事前学習の位置付けとなることも多い。広義には、これらの学習活動を含めてフィールドワーク学習と呼ばれることもある。

ところで、新聞記事は、インターネットや文献の情報と類似性はある。実際、多くの新聞社は、デジタル版新聞記事のWebサイトをもっている。ただ、フィールドワーク（的）学習に限れば、新聞記事の教材活用は多くはなかった。その理由は、以下の事情によるものと考えられる。インターネットや文献の場合、学習者が得たい地域情報が比較的整理されている。新聞記事は、毎時、多様な地域情報はあるものの、学習者が得たいものとは限

らない。

他方、情報の正解性という点で見れば、次のような危険性がある。インターネットや文献の情報は、過去の情報を利用したもの、真意が判断できないものが含まれる。新聞記事の場合、記者が、直接、地域に出向き観察したり、聞き取り調査をしたりといった行動を通じて得た情報が多い。よって、正確な地域理解をしたいのであれば、フィールドワーク学習の教材として、新聞記事を用いる意義は高い。今回は、資料選択の上で、この点を重視した。

2 学習指導要領における地域調査の学習内容

本章では、中学校社会科地理的分野、高等学校地理歴史科地理において、フィールドワーク学習における地域調査の学習内容を、どのように実践するよう述べているか、確認する。

中学校の場合、日本の様々な地域の単元において、地域調査の手法と地域の在り方とに分離した。従前は、「世界の様々な地域の調査」と「身近な地域の調査」であった。前者は、インターネットや文献等を用いた調査活動、後者は、それに現地調査・観察を加えたものである。よって、従前の地域調査は、空間的な違いを基に、実施するようになっていた。今回は、観察や野外調査、文献調査等を学ぶ実施方法と地域の将来像を構想する学習内容に分け、先に手法を学び、後に学校所在地周辺の地域で実践するようにした。身近な地域の表現は、今回、学校所在地周辺へ変更となっている。また、地理的課題として、自然災害、人口減少、産業立地といった地域の課題に着目させ、その解決（方向性）を目指すような活動を示している。

第1表 中学校社会科地理的分野（地域調査の内容）

C 日本の様々な地域

(1) 地域調査の手法

地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解すること。

(イ) 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的スキルを身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現するこ

と。

(4) 地域の在り方

空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 地域の実態や課題解決のための取組を理解すること。

(イ) 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 地域の在り方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

資料) 平成 29 年告示中学校学習指導要領解説社会編。

高等学校(地理総合)の場合、生活圏の調査と地域の展望の単元において、地域調査をするようになってきている。地域調査の対象は、学校所在地周辺という表現から、生活圏となっている。生活圏は、従前の地理 A でも用いられたものである。地理的範囲(生活圏)は、高校生の活動範囲を考えると、中学生より広くなると考えられる。また、地域調査の内容は、地理的課題として、解決の取組状況やその探究を求めるようになってきている。内容的には、中学校と類似しているものの、学習活動・成果をより深く求めている。地理的な課題として、防災などを例示している。

第 2 表 高等学校地理歴史科地理総合(地域調査の内容)

(2) 生活圏の調査と地域の展望

空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

資料) 平成 30 年告示高等学校学習指導要領解説地理歴史編。

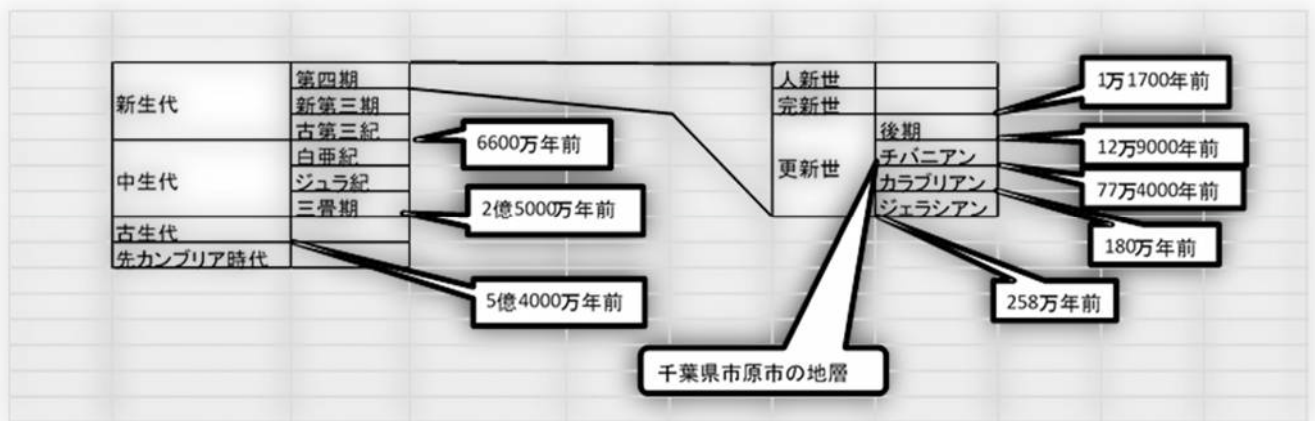
以上から、中学校や高等学校いずれでも、身近な地域（学校所在地周辺や生活圏）において生じている問題点（課題）を取り上げ、その背景・要因を探り、現状を調べ、改善に向けた動向を考察するといった流れとなっている。また、高等学校の方が、より後半的学習活動（改善に向けた動向の考察）に重点を置いている。

3 新聞記事の教材活用の可能性

本章では、フィールドワース的学習における新聞記事の教材活用の可能性を示す。今回は、新聞記事（2020年1月18日 付聞記事）の具体的内容として「チバニアン」を取り上げる。

チバニアン（千葉時代）とは、地層千葉セクション（千葉県市原市）が国際模式地に中期更新世（77万4000～12万9000年前）の名称として決定し、命名されたものである。地磁気逆転の痕跡は、1970年代に確認されていたものの、反対派の主張があり、決定までに時間を要した。申請は、2017年6月に行い、1次～3次審査を経て、韓国で開催されていた国際地質科学連合の理事会（2020年1月17日）で決まった。

これまでの更新世の命名は、イタリア（8期連続命名権獲得／ランギアン～カラブリアン）が中心であった。今回、千葉と並んで、イタリア南部の2か所（イオニアン）も国際模式地として申請していた。よって、地球史における地名の命名は、イタリアの連続が絶たれ、日本が初めとなった。



第1図 地質時代の概要

今回、対象とした新聞は、6紙（朝日・読売・毎日・日経・産経・道新）である。表3は、チバニアンに関する見出し等の概要を表したものである。いずれも、チバニアン決定の文言がある点は、共通する。また、本文の他、図表がある点も共通する。ただ、掲載する情報量には、差異がある。その差異は、文章量と図表の点数によるものである。最も情報量が多い新聞社は、毎日新聞であった。具体的には、主な文章の情報として、チバニア

ン決定の概要、地磁気逆転の内容（最後の地磁気逆転くつきり）、放射年代測定の内容（77万年前定説覆した放射年代測定）、イタリアとの競合の内容（イタリアとの競合 地元支え）である。図表は、写真として地層「千葉セクション」の様子、年表として地質時代の概要、チバニアンを巡る動き、図解として地磁気の逆転の構造を示した。

第3表 チバニアンに関する見出し等の概要

新聞社名	見出し	本文・図表
朝日新聞	千葉時代 チバニアン 地質史 初の日本名決定	本文1頁（一部） 年表（地質）
読売新聞	チバニアン命名 日本の研究チーム「感無量」	本文1頁（一部） 地図（市原市の位置） 写真（人物・地層）
毎日新聞	「チバニアン」決定 地質時代初の日本名 国際学会	本文2頁 年表（地質・動向） 写真（地質）・図解
日本経済新聞	地球史に「チバニアン」 国際学会決定 日本の地名初採用	本文2頁 年表（地質）
産経新聞	「チバニアン」命名決定 地球史 日本初の地質年代	本文2頁 年表（地質）・写真（地質）・ 地図（市原市の位置）
北海道新聞	地球史にチバニアン （千葉時代） 国際地質学会 初の日本名	本文1頁 年表（地質） 地図（市原市の位置）

資料）各新聞紙より。

それでは、チバニアンに関する地域情報（文章）として、どのような内容がみられるか、確認したい。大きくは、2つの特色がある。1つは、チバニアンの命名となった根拠（地磁気の逆転の痕跡）についてである（毎日・朝日・日経・道新）。2つは、チバニアンの命名（申請）の過程（反対派の動向）についてである（読売・産経）。これら2つの内容が、地域情報の重点であり、情報の信ぴょう性も高いものと判断できる。

これらの地域情報を統合したものが、図2の構造図である。地域情報の収集には、1つの新聞記事からでは限界がある。他方、いくつかの新聞記事の情報を統合することで、より厚みのある地域情報となることを確認できた。

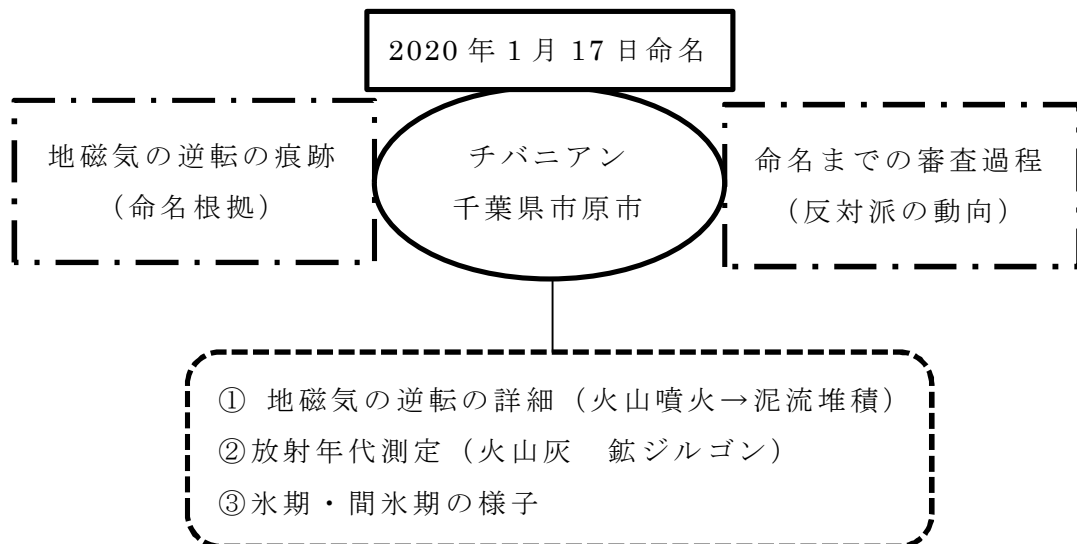
第 4 表 チバニアンに関する地域情報の一部

新聞社名	記事内容（地域情報の一部）
朝日新聞	<p>市原市の地層に、約 77 万年前に地域の N 極と S 極が逆転した痕跡がはっきり残っていることを示した。</p>
読売新聞	<p>審査中の 18 年 7 月、申請に批判的な研究者が地層周辺の賃貸権を設定。地層への立ち入りが制限され「研究のための自由な立ち入りの保証」という申請要件を欠く恐れが出たため、市原市は 19 年 9 月に立ち入り可能とする条例を制定した。</p>
毎日新聞	<p>チバニアン認定の根拠となった養老川沿いの露出した地層「千葉セクション」～。</p> <p>千葉セクションには、この「逆転」の記録が明瞭に残る。77 万年前は深さ約 700m の深海だったが、その後隆起して今の地形となった。この場所には、関東山地や火山の多い伊豆半島方面から泥が流入して堆積。泥に含まれるマグマ由来の磁鉄鉱が当時の地磁気をとどめており、分析が可能だった。また、地磁気逆転の「直前」となる 77 万 4000 年前には御嶽山が噴火。千葉セクションは、火山灰層がくっきりと見られることも特徴だ。今回境界となる国際模式も、この火山灰層に指定された。</p> <p>この火山灰から、マグマが冷える時に作られる鉱物のジルコンを約 300 粒抽出。ジルコンには精度な年代測定ができる放射性ウランが含まれ、噴火の時期が特定できた。</p> <p>さらに、海中の微生物「有孔虫」などの化石の殻に含まれる酸素の重さを調べることで当時は氷期ではなく、温暖な間氷期だったと知ることができた。</p> <p>①地磁気逆転②放射年代測定③氷期・間氷期の 3 つの特徴を 1 か所でみられるのは千葉だけであった。</p>
日本経済新聞	<p>市原市の地層には、地球で南北を示す磁気の向きが正反対に変わってします「地磁気の逆転」を明確に示す証拠があり決め手となった。</p> <p>方位磁石が指す方向を決める地磁気の向きは、過去に何度も逆転していたことが分かっている。約 77 万年前に</p>

	<p>は最後の逆転が起き、現在のように磁石のN極が北を指すようになった。</p> <p>千葉県市原市の地層には、磁石の性質をもつ鉱物が含まれ、はっきりした記録が残っていた。複数の手法による分析で、逆転が起きた時期が一致した。分厚い当時の地層の中に、花粉や化石が含まれていたことも決定を後押しした。</p>
産経新聞	<p>審査の過程では、チバニアン承認を妨げようとする国内の反対者の対応にも追われた。研究者が地層に立ち入れないようにする動きに対し、地元の市原市が条例を制定して解決に協力するなど、科学者と自治体が結束して乗り切った。</p>
北海道新聞	<p>地球の磁場（地磁気）のN極とS極は不規則に反転していて、現在の状態になった約77万年前の反転がチバニアン始まりを示す出来事とされる。IUGSは千葉県市原市の地層は理想的なつもり方をしていて、この痕跡をはっきり読み取れると認定。</p>

資料) 各新聞紙より。

注) 毎日新聞は、地域情報の内容を断片的に抽出したものである。



第2図 6紙からのチバニアンに関する地域情報の統合（構造図）

注) 1点鎖点は重点内容（複数記事）、点線は関連内容（単独記事）を意味する。

4 おわりに

小稿は小中高を通じての地理学習におけるフィールドワークに着目し、新聞記事を活用しての授業開発の可能性を示すものであった。具体的には、チバニアン決定の内容を用いて、どのような地域情報を収集できるのか、浮き彫りとした。

その結果、いくつかの新聞記事を統合することで、地域情報の重点内容と関連内容を収集できることを確認した。よって、新聞記事の教材活用について一定の有用性があると考えられる。とりわけ、第2章でも確認したように、地域調査の地理的主題は、地域社会の課題に焦点を充てるようになっている。もともと新聞記事は、人口減少や自然災害といった地域社会の課題を取り上げる機会が多い。その点においても、新聞記事の教材活用は好都合と判断できる。

今後は、地域社会の課題を対象とした新聞記事の活用の授業開発とその効果の検証が必要となろう。

文 献

文部科学省（2018）：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』東洋館出版社。
文部科学省（2019）：『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編』東洋館出版社。